

平成 30 年度

## 事業報告書

(自 平成 30 年 4 月 1 日 至 平成 31 年 3 月 31 日)

### 1 事業の概要

#### 農作物共済

##### 水 稲

平成 30 年産水稻の引受面積は、一筆方式 26,110ha、品質方式 3.3ha、合計 26,113ha (対前年比 97.7%)、共済金額は 14,630,779 千余円 (対前年比 100.04%) となった。

作柄は、各作期とも好天に恵まれ田植作業後の活着も良好で初期生育は順調だった。出穂期は平年より 2 日～4 日、普通栽培では 5 日程度早まり、成熟期は 5 日～7 日程度早まったが、収穫は天候不順により遅れ気味となった。

入梅は平年より 2 日早く 6 月 6 日頃、梅雨明けは平年より 22 日早く観測史上最も早い 6 月 29 日となり、その後も高温で推移したことにより登熟不良が懸念され、登熟不良の注意喚起を各関係機関と検討したが、注意喚起には至らなかった。

また、一部地域で鳥獣害、台風 24 号による風水害、内穎褐変病、紋枯病、もみ枯細菌病等の病害が発生した。

一筆方式、品質方式共に通常災害となり、支払共済金は 7,858 千余円となった。

##### 陸 稲

平成 30 年産の陸稲については引受がなかった。

##### 麦

平成 31 年産の引受面積は、一筆方式 3,914ha、災害収入共済方式 821ha、合計 4,735ha (対前年比 83.3%)、共済金額は 1,230,964 千余円 (対前年比 85.3%) となり、改正制度後初の引受となった。

平成 30 年産の作柄は、11 月中旬～2 月上旬にかけての降雨、降雪で土壤湿潤害による発芽不能や初期生育不良の圃場があった。3 月以降は曇天傾向ではあったものの高温少雨による干害や急速な登熟で枯れ熟れ症状から細粒麦となり品質の低下及び減収となった。また、一部圃場で小麦なまぐさ黒穂病が発生し、減収となった。

一筆方式の支払共済金は 9,505 千余円で通常災害、災害収入共済方式でも支払共済金 41,247 千余円で通常災害となった。

## 家畜共済

引受は、畜産農家の高齢化・後継者不足、飼料の高騰、環境問題等により戸数及び資源頭数が減少しており、引受戸数は、248戸（対前年比95.4%）となり、頭数は、18,052頭（対前年比91.6%）と減少した。共済金額は共済価額が高騰（対前年比104.6%）するなか1,573,659千余円（対前年比98.3%）と漸減した。

共済事故は、支払共済金総額256,817千余円（対前年比102.9%）であり、うち死廃共済金は、135,277千余円（対前年比110.2%）、病傷共済金は、121,540千余円（対前年比95.8%）であった。診療補填金及び技術給付金は、82,854千余円（対前年比95.7%）となった。

## 果樹共済

なし

### ○半相殺減収総合方式

平成31年産引受面積は、中部統括、北部統括、東部統括すべてが短縮方式の引受で5,325.8a（対前年比82.9%）となった。これは新規引受があったものの農家の高齢化及び後継者不足による廃園、収入保険への移行、規模縮小等により減少となったものである。

平成30年産被害は、虫害（ダニ、シンクイムシ）、鳥害、風水害等により支払共済金は1,938千余円となり通常災害であった。

### ○樹園地単位減収総合方式

平成31年産引受面積は、中部統括、東部統括で短縮方式の引受があり1,943.9a（対前年比86.1%）となった。これは半相殺方式・収入保険への移行と農家の高齢化及び後継者不足による廃園等により減少となったものである。

平成30年産被害は、虫害（ダニ）により支払共済金は542千円余円となり通常災害であった。

平成30年産なしの作柄は、関東地方の梅雨時期の降水量は県西部で多く他は平年並みであったが、気温が高めで推移したことに加え、日照時間が平年をかなり上回ったため果樹の肥大は良好であった。

被害については、凍霜害や鳥害、病虫害、ひょう害、風水害、その他気象上の災害（日焼け）が発生した。

凍霜害については東松山市の一部園地にて開花期に局地的な霜により結果不良による減収、鳥害については蓮田市と久喜市で被害があり、病虫害についてはハダニ類が高温少雨により東松山市、久喜市、蓮田市で発生した。7月中旬から8月中旬にかけてシンクイムシ虫類による食害が東松山市の一部園地にて発生して減収となった。

8月27日に県南部で発生したゲリラ豪雨に伴うひょう害があったが損害程度は軽微であった。風水害については、台風21号の突風により東松山市、久喜市で擦り傷や裂果での減収があり、8月上旬に高温が続いたため久喜市、白岡市において高温障害による日焼けが発生して減収となる園地があった。

## ぶどう

### ○半相殺減収総合方式

平成 30 年産引受面積は、中部統括及び北部統括管内で短縮方式の引受があり、485.0a（対前年比 113.6%）と 58a の増となった。

平成 30 年産被害は獣害（シカ・ハクビシン）、花ぶるい症状による単為結果により支払共済金は 309 千余円となり、通常災害となった。

### ○半相殺特定危険方式

平成 30 年産引受面積は、東部統括管内で減収ひょう害方式の引受があり 528.4a（対前年比 98.6%）となり、高齢化による規模縮小のため減少となった。

平成 30 年産被害は、降ひょうがなく無被害であった。

### ○樹園地単位減収総合方式

平成 30 年産引受面積は、中部統括及び北部統括管内で短縮方式の引受があり 172.5a（対前年比 102.7%）となり、4.5a の増となった。

平成 30 年産被害は、被害申告もなく無被害であった。

平成 30 年産ぶどうの作柄は、萌芽期から 7 月中旬まで高温が続き、降水量も平年並みかそれ以上だったため新梢の伸長は順調であった。

被害については皆野町の一部地域において萌芽期に夜温が急激に低下したことにより花ぶるい症状による単為結果が発生した。8 月中旬から収穫期にかけて獣害（シカ、ハクビシン）による食害が日高市、横瀬町の一部園地で発生した。

## 畑作物共済

### 大 豆

平成 30 年産の引受は、加入推進の取組による新規加入者を 4 戸獲得したが、2 戸減の引受戸数 55 戸（対前年比 96.5%）、引受面積 30,130.1a（同 97.7%）698.7a 減となった。

作柄は、播種の始まる 6 月下旬は乾燥した気象となったが、台風 12 号の影響で一部圃場で冠水、または土壌表面の硬化によって発芽不良を起こした。特に乾燥状態から一転して冠水し土壌水分量が変化したことは発芽不良を助長し、発芽した一部圃場では生育不良がみられ、8 月の開花期前後に高温で推移したため結莢率の低下を招き着莢数が少なくなり減収となった。その後 9 月下旬にかけて台風や前線の影響により降雨、曇天が続き、土壌水分過多の状態が続いたため、一部圃場で根腐れ症状が見られた他、根や根粒の減少により生育が抑制され、日照不足もあり子実の肥大が悪く、変形粒も多く収量が低下した。また、多湿状態が続いたことによって腐敗粒や紫斑病などの病害粒が多く発生したことも減収に繋がった。虫害については、生育期間中高温傾向に推移したことから、カメムシ類、ハスモンヨトウ、オオタバコガ等の害虫が県内各地で発生し被害を受けた。

支払共済金は第 1 区分（半相殺・一筆）通常災害 106 千余円、第 2 区分（全相殺）異常災害 7,741 千余円でとりまとまった。

## 茶

平成 31 年産の引受は、戸別訪問等により推進したが、引受戸数（実）27 戸（対前年比 75.0%）、引受面積は 1,794.3a（対前年比 74.7%）収入保険に 2 戸移行したが、前年を下回る結果となった。

平成 30 年産の作柄については、1 月 22 日の降雪、1 月から 2 月まで平年より低めの気温が続いたことによる寒害、萌芽期の降霜による凍霜害により新芽の生長が滞り生育程度に差が生じ減収となった。

支払共済金は 234 千余円、通常災害でとりまとまった。

## スイートコーン

平成 30 年産の引受は、有資格者全戸戸別訪問を行ったが、5 戸減少、引受戸数 19 戸（対前年比 79.2%）、引受面積は 1,232.5a（対前年比 74.1%）と前年を下回ってしまった。

作柄は、気温が高く、梅雨明けが早く降水量は少なく、日照時間が多かった。特に天候が大きく荒れることなく作柄は概ね良好だった。しかし、3 月下旬から 4 月中旬の播種期に降雨がなかったことから干害によって一部耕地にて発芽の悪い耕地がその後の生育に影響があり減収となった。また、獣害により減収した耕地がみられた。

支払共済金は 105 千余円、通常災害でとりまとまった。

## 蚕 繭

平成 30 年産の引受は、廃業等により 2 戸減少し引受戸数（実）19 戸（対前年比 90.5%）、共済箱数は 209.53 箱（対前年比 95.8%）と前年を下回った。

春蚕繭の作柄は、天候が概ね順調に推移したが、5 月中旬から 6 月中旬までの 5 齢期において高温多湿で推移したため蚕児の抵抗力が弱まり一部農家で膿病が発生したが、2 割超過被害とはならなかった。

初秋蚕繭の作柄は、平年以上の日照時間が得られ桑の生育は順調に進んだが、平均気温が極めて高く推移し、配蚕から収繭に至るまで最高気温が 35℃を超える日が続き抵抗力を失った蚕が一部農家で軟化病が発生し減収となった。

支払共済金は異常災害で 232 千円となった。

晩秋蚕繭の作柄は、8 月下旬からの台風等の影響で雨量は平年より多かったが、曇天傾向が続き日照時間が少なく気温が低下したため、蚕の 4 齢期から 5 齢期に気温の低下により抵抗力の減少した蚕に軟化病がみられたが、2 割超過被害とはならなかった。

## 園芸施設共済

引受戸数は、2,726 戸（対前年比 96.0%）、引受棟数 7,976 棟（対前年比 95.8%）、共済金額は 131 億 7 千 7 百万余円（対前年比 94.8%）で、前年度との比較では、戸数、棟数、共済金額とも農家の高齢化及び後継者不足による規模縮小、共済掛金の増高により減少となった。

被害は、自然災害では風害で 25 棟、10 月 1 日の台風 24 号を含む風水害 517 棟、ひょう害その他 24 棟。施設内農作物の病虫害は 61 棟で、合わせて 627 棟（対前年比 467.9%）で、支払共済金は 74,132 千余円（対前年比 477.1%）となり、前年度と比較して大きく増加となった。

#### 任意共済

建物共済は、引受共済金額 1 兆 4,711 億円を目標に、仕組み改善による総合共済の補償拡充を活かした提案型の加入推進を図った結果、引受共済金額 1 兆 4,676 億余円（対前年比 96.3%）であった。その内訳は、総合共済 563 億余円、火災共済 1 兆 4,112 億余円の成績であった。

農機具損害共済は、機種ごとの新調達価額に見合った共済金額の増額加入やトラクター等の盗難に備えた加入推進に努めた結果、引受共済金額は、損害共済で 209 億余円（対前年比 105.0%）、農機具更新共済は、新規契約 1,250 万円と合わせた年度末保有共済金額は 2 億 4,780 万円（対前年比 67.1%）となり、任意共済事業の総共済金額は 1 兆 4,888 億余円となった。

事故は、建物共済では台風 24 号による自然災害や落雷、火災、盗難による毀損・汚損などにより事故棟数 712 棟・支払共済金 448,809 千余円（対前年比 205.3%）となり、前年度に比べ増加した。農機具損害共済は、接触事故や盗難による盗取などにより、事故台数 189 台・支払共済金 74,685 千余円（対前年比 101.4%）となり、前年度に比べ微増となった。農機具更新共済では、事故台数 3 台・支払共済金 392 千余円（対前年比 74.6%）、満期等台数 100 台・農機具減価共済金 105,350 千円（対前年比 128.8%）となり、任意共済事業の総支払共済金は 629,237 千余円であった。

## (1) 農作物共済関係

## (引 受)

区 分		項 目	組 合 員 数	引 受 面 積	引 受 収 量
水 稲	一 筆 品 質 小 計		人	a	kg
			28,586	2,610,996	86,625,216
			2	329	
陸 稲					
麦	一 筆	30年産	481	430,885	11,875,717
		31年産	369	391,367	10,675,825
	災害収入	30年産	235	137,831	
		31年産	155	82,124	
	小 計	524	473,491	10,675,825	
合 計			29,112	3,084,816	97,301,041

## (引受概要)

水稻の引受面積は、一筆方式26,110ha、品質方式3.3ha、合計26,113ha（前年対比97.7%）、共済金額14,630,779千円（前年対比100.04%）となった。一筆方式10a当たりの共済金額は56,025円、同農家負担共済掛金27円、品質方式10a当たりの共済金額は79,036円、同農家負担共済掛金168円となった。

陸稲は引受がなかった。

## (被 害)

区 分		項 目	被 害 組 合 員 数	共 済 減 収 量	共 済 金
水 稲	一 筆 品 質 小 計		人	kg	円
			203	47,595	7,835,918
			1	1,068	22,782
陸 稲					
麦	一 筆 災 害 収 入 小 計		93	95,360	9,505,822
			103	1,106,314	41,247,957
			196	1,201,674	50,753,779
合 計			400	1,250,337	58,612,479

## (被害概要)

水稻は、高温により登熟不良が懸念され関係機関と検討したが、注意喚起には至らなかった。一部地域では、鳥獣害、台風24号による風水害、内穎褐変病、紋枯病、もみ枯細菌病等の病害が発生した。

麦は、降雨、降雪による土壌湿潤害による発芽不良や初期生育不良の圃場があり、登熟期に高温少雨による干害や急速な登熟で枯れ熟れ症状から細粒麦となり品質の低下及び減収となった。また一部圃場で小麦なまぐさ黒穂病が発生し、減収となった。

## (支 払)

区 分		項 目	支 払 月 日	実 支 払 共 済 金	共 済 金	
				円	保 險 金	手 持 掛 金 充 当 額
水 稲	一 筆 品 質 小 計		12月20日	7,835,918	円	円
			12月20日	22,782		7,858,700
				7,858,700	0	7,858,700
陸 稲						
麦	一 筆 災 害 収 入 小 計		9月18日	9,505,822		
			12月20日	41,247,957		38,233,778
				50,753,779	0	38,233,778
合 計				58,612,479	0	46,092,478

## (損害防止)

県が実施している病虫害発生予察情報等で得た情報を組合員等に伝達し損害の防止に努めた。損害防止活動として防除薬剤費を助成した。

共済金額	徴収共済掛金	交付金又は 納入保険料(△)	手持共済掛金
円	円	円	円
14,628,182,832	7,141,070	6,980,540	14,121,610
2,597,133	5,545	3,986	9,531
14,630,779,965	7,146,615	6,984,526	14,131,141
953,005,540	12,144,826	6,381,003	18,525,829
846,966,057	15,237,047	16,016,606	31,253,653
489,981,957	15,149,012	4,430,078	19,579,090
383,998,863	13,280,453	6,467,553	19,748,006
1,230,964,920	28,517,500	22,484,159	51,001,659
15,861,744,885	35,664,115	29,468,685	65,132,800

麦の引受面積は、一筆方式3,914ha、災害収入共済方式821ha、合計4,735ha（前年対比83.3%）、共済金額1,230,964千円（前年対比85.3%）となった。一筆方式10a当たりの共済金額は21,641円、同農家負担共済掛金389円、災害収入共済方式10a当たりの共済金額は46,758円、同農家負担共済掛金1,617円となった。

共済金 共済金額
%
0.1
0.9
0.1
1.0
8.4
3.5
0.4

支 払 財 源			実支払共済金
法定積立金充当額	特別積立金充当額	その他	共 済 金
円	円	円	%
			100.0
0	0	0	100.0
12,520,001			100.0
12,520,001	0	0	100.0
12,520,001	0	0	100.0

(2) 家畜共済関係

(引受)

項目 区分	組合員数	有資格頭数	事業計画 頭数①	引受頭数②	$\frac{②}{①}$	共済金額
	人	頭	頭	頭	%	円
乳牛の雌等 (胎児)	173	14,327	11,357 (3,864)	12,090 (4,188)	106.5	1,266,164,660
肉用牛等 (胎児)	61	17,418	1,910 (450)	2,205 (580)	115.4	251,711,150
一般馬		0				
種豚	9	4,864	753	619	82.2	26,843,500
肉豚	5	73,771	4,245	3,138	73.9	28,940,000
合計	248	110,380	18,265	18,052	98.8	1,573,659,310

(引受概要)

酪農経営に適した引受方式、付保割合別の掛金を提示し、特に乳牛の子牛・胎児のセット加入を推進。また、危険段階別掛金率の趣旨を説明し家畜診療所の協力のもと、戸別推進に努めた。

(事故)

項目 区分	被害組合員数	死 廃 事 故		
		頭 数		
		死 亡	廃 用	計
	人	頭	頭	頭
乳牛の雌等 胎児	169	603 243	594	1,197
肉用牛等 胎児	54	67 46	16	83
一般馬				
種豚	8	43	27	70
肉豚	5	631		631
合計	236	1,344	637	1,981

(被害概況)

夏季の猛暑により熱射病に起因する死亡廃用事故が多発し、死廃共済金は前年比110.2%と増加した。病傷共済金は前年比95.8%であった。

(損害防止)

項目 区分	実施種目	対象頭数	経費概算
		頭	円
特定損害防止	—	—	—
一般損害防止	予防衛生措置	18,052	2,365,200

一般損害防止事業実施要領に基づき牛、豚の胃腸炎の予防及び牛白血病をはじめとする感染症を媒介する有害昆虫の防除を目的に配布を行った。

(診療所)

項目 診療所名	職員数	管 内 (肉豚を除く)		診
		有資格頭数	加入頭数	共済事故
	人	頭	頭	頭
家畜診療所	8	36,609	14,914	2,334



徴収共済掛金	交付金又は 納入保険料(△)	手持共済掛金
円 128,379,660	円 43,448,281	円 171,827,941
8,920,007	3,190,369	12,110,376
1,648,354	△ 143,634	1,504,720
2,813,776	△ 379,445	2,434,331
141,761,797	46,115,571	187,877,368

支払共済金	病 傷 事 故	
	件 数	支払共済金
円 120,099,355	件 8,559	円 113,393,902
7,533,630	722	8,084,389
2,690,030	23	61,950
4,954,609		
135,277,624	9,304	121,540,241

摘 要		
生菌製剤	1,555,200 円	平成30年4月～6月、引受時に配布 豚については種豚農家243戸に配布
粘着シート	810,000	

療 件 数		損 害 防 止 事 業			摘 要
事故外	診療外	一般	特損	経費概算	
頭 91	頭 2,953	頭 18,052	頭 —	円 2,365,200	

## (3) 果樹共済（なし）関係

## (引 受)

年産	果樹共済保険区分		組 合 員 数	引 受 面 積	標 準 収 穫 量
	区分	果樹区分			
30	半相殺減収総合短縮方式	半相殺減収総合短縮方式	256	6,428.0	1,578,041
	樹園地単位減収総合短縮方式	樹園地単位減収総合短縮方式	58	2,257.9	553,039
31	半相殺減収総合短縮方式	半相殺減収総合短縮方式	223	5,325.8	1,261,312
	樹園地単位減収総合短縮方式	樹園地単位減収総合短縮方式	51	1,943.9	469,571
	合 計		274	7,269.7	1,730,883

## (引受概要)

高齢化、後継者不足等厳しい状況の中、果樹共済支部長推進会議を開催し引受の協力を頂き職員推進を行うが、引受面積は半相殺減収総合短縮方式については前年度比82.9%、樹園地単位減収総合短縮方式については前年度比86.1%、全体で前年度比83.7%と減少した。

## (被 害)

果樹共済保険区分		被害組合員数	3割・4割超過 被害面積	認定減収量
区分	果樹区分			
半相殺減収総合短縮方式	半相殺減収総合短縮方式	10	128.5	18,275
樹園地単位減収総合短縮方式	樹園地単位減収総合短縮方式	3	41.2	5,412
合 計		13	169.7	23,687

## (被害及び評価概況)

虫害（ハダニ）については東松山市、久喜市、蓮田市で発生、鳥害は蓮田市、久喜市、台風21号等の影響により風水害が東松山市、高温障害により久喜市、白岡市において発生し減収となった。

## (支 払)

果樹共済保険区分		支払月日	実支払共済金	保 険 金
区分	果樹区分			
半相殺減収総合短縮方式	半相殺減収総合短縮方式	12月18日	1,938,150	
樹園地単位減収総合短縮方式	樹園地単位減収総合短縮方式	12月18日	542,790	
合 計			2,480,940	0

## (損害防止)

損害防止費交付要綱に基づき、病虫害防除に使用した薬剤の購入経費の一部補助を行った。

共 済 金 額	徴収共済掛金	交付金又は 納入保険料 (△)	手持共済掛金
円 334,106,000	円 6,424,823	円 △ 1,947,258	円 4,477,565
103,444,000	988,734	△ 181,294	807,440
270,901,000	4,974,515	△ 313,527	4,660,988
89,157,000	804,046	74,756	878,802
360,058,000	5,778,561	△ 238,771	5,539,790

共済金	$\frac{\text{共済金}}{\text{共済金額}}$
円 1,938,150	% 0.6
542,790	0.5
2,480,940	0.6

共 済 金 支 払 財 源				$\frac{\text{実支払共済金}}{\text{共 済 金}}$
手持掛金充当額	法定積立金充当額	特別積立金充当額	その他	
円 1,938,150	円	円	円	% 100.0
542,790				100.0
2,480,940	0	0	0	100.0

(3) 果樹共済（ぶどう）関係

(引 受)

年産	果樹共済保険区分		組 合 員 数	引 受 面 積	標 準 収 穫 量
	区 分	果樹区分			
30	半相殺減収総合短縮方式	半相殺減収総合短縮方式	人 31	a 485.0	kg 42,266
	半相殺特定危険方式	減収ひょう害方式	19	528.4	46,373
	樹園地単位減収総合短縮方式	樹園地単位減収総合短縮方式	7	172.5	16,004
	合 計		57	1,185.9	104,643

(引受概要)

高齢化、後継者不足等厳しい状況の中、引受面積は半相殺減収総合短縮方式で前年対比113.6%、樹園地単位減収総合短縮方式で前年対比102.7%、半相殺特定危険方式で98.6%、全体で前年対比104.9%と増高した。

(被 害)

果樹共済保険区分		被害組合員数	3割・4割超過被害面積	認定減収量
区 分	果樹区分			
半相殺減収総合短縮方式	半相殺減収総合短縮方式	人 3	a 26.0	kg 1,018
半相殺特定危険方式	減収ひょう害方式			
樹園地単位減収総合短縮方式	樹園地単位減収総合短縮方式			
合 計		3	26.0	1,018

(被害及び評価概況)

皆野町において萌芽期に夜温が急激に低下したことにより、花ぶるい症状による単為結果の発生、8月中旬から収穫期にかけて日高市と横瀬町で獣害（シカ・ハクビシン）による食害が発生し減収となった。

(支 払)

果樹共済保険区分		支 払 月 日	実支払共済金	保 険 金
区 分	果樹区分			
半相殺減収総合短縮方式	半相殺減収総合短縮方式	12月18日	円 309,460	円
半相殺特定危険方式	減収ひょう害方式			
樹園地単位減収総合短縮方式	樹園地単位減収総合短縮方式			
合 計			309,460	0

(損害防止)

損害防止費交付要綱に基づき、病虫害防除に使用した薬剤の購入経費の一部補助及び日焼け防止の傘紙の配付を行った。

共 済 金 額	徴収共済掛金	交付金又は 納入保険料 (△)	手持共済掛金
円 29,081,000	円 358,332	円 △ 48,186	円 310,146
35,967,000	94,893	△ 2,218	92,675
9,592,000	60,757	3,765	64,522
74,640,000	513,982	△ 46,639	467,343

共済金	$\frac{\text{共済金}}{\text{共済金額}}$
円 309,460	% 1.1
309,460	0.4

共 済 金 支 払 財 源				$\frac{\text{実支払共済金}}{\text{共 済 金}}$
手持掛金充当額	法定積立金充当額	特別積立金充当額	その他	
円 309,460	円	円	円	% 100.0
309,460	0	0	0	100.0

(4) 畑作物共済関係

(引 受)

年度	項目		組合員数	引受面積 共済箱数	引受収量
	畑作物区分				
29	茶 (30年産)	半相殺方式	36	2,401.8	42,161
		災害収入共済方式			
		計	36	2,401.8	42,161
30	大豆	半相殺・一筆方式	14	7,453.4	80,380
		全相殺方式	41	22,676.7	218,020
		計	55	30,130.1	298,400
	茶 (31年産)	半相殺方式	27	1,794.3	34,790
		災害収入共済方式			
		計	27	1,794.3	34,790
	スイートコーン		19	1,232.5	76,692
	農作物計		101	33,156.9	409,882
	蚕 繭	春蚕繭	19	79.34	2,216
		初秋蚕繭	13	51.66	1,288
		晩秋蚕繭	15	78.53	1,832
		蚕繭計	47	209.53	5,336
	合計		148	33,156.9 209.53	415,218

(引受概要)

有資格者リストに基づき全戸引受推進を行った。

大豆：引受戸数55戸、引受面積前年対比97.7%

一筆方式10a当たりの共済金額は14,426円、同農家負担共済掛金は314円、全相殺方式10a当たりの共済金額は13,911円、同農家負担共済掛金は499円となった。

茶：引受戸数27戸、引受面積前年対比74.7%、10a当たりの共済金額は63,898円、同農家負担共済掛金は1,342円となった。

スイートコーン：引受戸数19戸、引受面積前年対比74.1%、10a当たりの共済金額は148,413円、同農家負担共済掛金は2,131円となった。

蚕繭：引受戸数19戸、引受箱数前年対比95.8%、春蚕繭1箱当たりの共済金額は64,799円、同農家負担共済掛金225円、初秋蚕繭1箱当たりの共済金額は57,843円、同農家負担共済掛金788円、晩秋蚕繭1箱当たりの共済金額は54,123円、同農家負担共済掛金278円となった。

共 済 金 額	徴収共済掛金	交付金又は 納入保険料 (△)	手持共済掛金
円 13,908,590	円 285,305	円 △ 115,127	円 170,178
13,908,590	285,305	△ 115,127	170,178
10,752,192	234,338	△ 53,746	180,592
31,545,984	1,132,444	△ 234,252	898,192
42,298,176	1,366,782	△ 287,998	1,078,784
11,465,300	240,867	△ 97,760	143,107
11,465,300	240,867	△ 97,760	143,107
18,291,951	262,673	△ 101,246	161,427
72,055,427	1,870,322	△ 487,004	1,383,318
5,141,120	17,878	△ 8,505	9,373
2,988,160	40,687	△ 194	40,493
4,250,240	21,841	3,662	25,503
12,379,520	80,406	△ 5,037	75,369
84,434,947	1,950,728	△ 492,041	1,458,687

## (被 害)

畑作物区分		項目	被害組合員数	共済減収量
大豆	半相殺・一筆方式		5	910
	全相殺方式		24	52,410
	計		29	53,320
茶	半相殺方式		4	691
	災害収入共済方式			
	計		4	691
スイートコーン			2	474
農作物計			35	54,485
蚕繭	春 蚕 繭		0	0
	初 秋 蚕 繭		3	100
	晩 秋 蚕 繭		0	0
	蚕 繭 計		3	100
合 計			38	54,585

## (被害概要)

大豆：8月の開花期が高温により着莢数減少、9月以降日照不足により子実の肥大が悪く、変形粒も多く収量が低下、また、多湿状態による腐敗粒、紫斑病などの病害粒により減収、及びカメムシ等の害虫により被害を受けた

茶：1月から2月までの低温による寒害、萌芽期の降霜害により減収した。

スイートコーン：干害及び獣害により減収となった。

蚕繭：初秋蚕繭で病害（軟化病）により減収となった。

## (支 払)

畑作物区分		項目	支払月日	実支払共済金	保 険 金
大豆	半相殺・一筆方式		2月14日	106,470	
	全相殺方式		3月27日	7,741,802	4,596,355
	計			7,848,272	4,596,355
茶	半相殺方式		8月20日	234,940	
	災害収入共済方式				
	計			234,940	0
スイートコーン			10月18日	105,795	
農作物計				8,189,007	4,596,355
蚕繭	春 蚕 繭				
	初 秋 蚕 繭		11月5日	232,000	121,714
	晩 秋 蚕 繭				
	蚕 繭 計			232,000	121,714
合 計				8,421,007	4,718,069

## (損害防止)

県が実施している病虫害発生予察情報等で得た情報を組合員等に伝達し損害の防止に努めた。損害防止活動として防除薬剤費を助成した。



共 済 金	共済金 共済金額
円	%
106,470	1.0
7,741,802	24.5
7,848,272	18.6
234,940	1.7
234,940	1.7
105,795	0.6
8,189,007	11.4
0	0.0
232,000	7.8
0	0.0
232,000	1.9
8,421,007	10.0

共 済 金 支 払 財 源				実支払共済金 共 済 金
手持掛金充当額	法定積立金充当額	特別積立金充当額	その他	
円	円	円	円	%
106,470				100.0
898,192	2,247,255			100.0
1,004,662	2,247,255	0	0	100.0
170,178	64,762			100.0
170,178	64,762	0	0	100.0
105,795				100.0
1,280,635	2,312,017	0	0	100.0
40,493	69,793			100.0
40,493	69,793	0	0	100.0
1,321,128	2,381,810	0	0	100.0

## (5) 園芸施設共済関係

(引 受)

施設区分		項 目	組合員数	引受棟数	設置面積	特定園芸施設	
						特定園芸施設 千円	特定園芸施設 復旧費用 千円
ガラス	I 類						
	II 類		136	231	161,579	1,530,925	196,998
プラスチック	I 類						
	II 類		1,298	5,613	1,123,494	2,372,108	149,210
	III 類		140	163	147,947	484,760	37,926
	IV類 (甲)		548	773	731,554	3,620,332	343,411
	IV類 (乙)		312	442	423,777	2,239,007	174,827
	V 類		103	167	107,794	624,292	80,121
	VI 類		17	163	24,061	43,185	5,089
	VII 類		172	424	785,898	336,590	22,182
合 計			2,726	7,976	3,506,104	11,251,199	1,009,764

施設区分		項 目	共 済 金 額				
			特定園芸施設 千円	特定園芸施設 復旧費用 千円	附带施設 千円	附带施設 復旧費用 千円	施設内農作物 千円
ガラス	I 類						
	II 類		1,224,647	157,579	84,255	12,510	71,958
プラスチック	I 類						
	II 類		1,895,420	118,759	181,282	27,517	208,759
	III 類		387,740	30,325	88,744	11,807	55,481
	IV類 (甲)		2,895,669	274,641	667,548	103,634	333,466
	IV類 (乙)		1,791,028	139,820	360,195	49,979	225,021
	V 類		499,368	64,070	96,123	21,578	21,742
	VI 類		34,506	4,049	0	0	0
	VII 類		269,108	17,724	0	0	0
合 計			8,997,486	806,967	1,478,147	227,025	916,427

(引受概要)

引受戸数は、2,726戸（対前年比96.0%）、引受棟数7,976棟（対前年比95.8%）、共済金額は131億7千7百万余円（対前年比94.8%）で、前年度との比較では、戸数、棟数、共済金額ともに農家の高齢化及び後継者不足による規模縮小、また共済掛金等の増高により減少となった。

共 済 価 額				
附帯施設	附帯施設 復旧費用	施設内農作物	撤去費用	合計
千円	千円	千円	千円	千円
105,330	15,642	89,967	92,601	2,031,463
227,230	34,792	261,305	125,988	3,170,633
110,944	14,769	69,376	53,428	771,203
834,524	129,598	416,951	382,990	5,727,806
450,291	62,493	281,347	175,076	3,383,041
120,168	26,986	27,187	61,499	940,253
0	0	0	5,438	53,712
0	0	0	43,364	402,136
1,848,487	284,280	1,146,133	940,384	16,480,247

撤去費用	合計	徴収共済掛金	交付金又は 納入保険料 (△)	
			手持共済掛金	
千円	千円	円	円	円
74,034	1,624,983	2,365,287	715,735	3,081,022
100,025	2,531,762	25,884,224	△ 10,483,923	15,400,301
42,720	616,817	6,420,292	△ 4,442,371	1,977,921
306,157	4,581,115	17,803,694	△ 9,934,756	7,868,938
139,994	2,706,037	13,101,494	△ 5,725,463	7,376,031
49,164	752,045	2,496,915	△ 277,457	2,219,458
4,293	42,848	960,737	△ 422,715	538,022
34,668	321,500	1,970,256	922,407	2,892,663
751,055	13,177,107	71,002,899	△ 29,648,543	41,354,356

## (被 害)

施設区分		被 害			損害の額	
		組合員数	棟 数	附帯施設数		特定園芸施設
		人	棟	基	円	円
ガラス	I 類					
	II 類	6	6	0	652,749	359,025
プラスチック	I 類					
	II 類	209	402	15	59,863,004	42,304,237
	III 類	16	16	4	2,038,023	1,215,484
	IV類 (甲)	72	79	14	13,676,183	4,791,060
	IV類 (乙)	28	28	7	4,518,876	895,524
	V 類	17	22	2	2,250,934	1,519,089
	VI 類	2	4	0	425,930	339,937
VII 類	57	71	0	9,342,013	7,462,871	
合 計		407	628	42	92,767,712	58,887,227

## (被害及び評価概況)

被害は、自然災害では風害で25棟、10月1日の台風24号を含む風水害517棟、ひょう害その他24棟。施設内農作物の病虫害は61棟で、合わせて627棟（対前年比467.9%）で、支払共済金は74,132千余円（対前年比477.1%）となり、前年度と比較して大きく増加となった。

## (支 払)

実支払共済金	共 済 金 支 払		
	保険金	手持掛金充当額	法定積立金充当額
円	円	円	円
74,132,855	16,241,810	39,959,574	17,931,471

## (損害防止)

県から配信される病虫害予報及び防除情報をもとに、必要に応じて農家訪問時等に病虫害発生予察情報を提供した。

共 済 金				共済金 共済金額
附帯施設	施設内農作物	撤去復旧費用	合 計	
円	円	円	円	%
0	163,173	0	522,198	0.03
1,255,323	3,880,677	373,091	47,813,328	1.89
294,971	62,584	57,335	1,630,374	0.26
1,830,959	4,045,499	272,965	10,940,483	0.24
777,800	1,596,282	345,292	3,614,898	0.13
163,457	0	117,825	1,800,371	0.24
0	0	0	339,937	0.79
0	0	8,395	7,471,266	2.32
4,322,510	9,748,215	1,174,903	74,132,855	0.56

財 源		実支払共済金 共 済 金
特別積立金充当額	その他	
円	円	%
0	0	100.0

(6) 任意共済関係

1 建物共済

(引 受)

区分	項目	加入棟数	共済金額	共 済	
				純共済掛金	
		棟	円		円
	火災共済	117,218	1,411,235,960,000		607,363,067
	総合共済	9,874	56,365,610,000		99,868,946
	合 計	127,092	1,467,601,570,000		707,232,013

(注) 総共済掛金額 1,270,164,299円、再共済割合 火災共済及び総合共済（地震以外）30%、総合共済（引受概要）

建物共済全体の加入棟数は、127,092棟（前年対比96.0%）、共済金額1兆4,676億余円（前年対比96.3%）と前年に比べ減少したが、自然災害を対象とした総合共済の引受拡大に重点を置き推進した結果、加入棟数9,874棟（前年対比101.0%）、共済金額563億余円（前年対比108.9%）と増加した。

(事 故)

事故棟数	加入総共済金額 (イ)	支 払 共	
		火災	
棟	円		円
712	7,592,900,000		371,706,229

(事故概況)

事故発生棟数は、台風24号の影響による風水害事故が最も多く、次いで落雷、火災事故が多く発生した。事故原因別の支払共済金は、火災原因の不明・調査中を除くと焚火による火災事故や台風による風害の支払が多かった。

(原因別事故発生状況)

事 故 原 因 別		事故棟数	加入総共済金額 (イ)
火災（拡張担保を含む）	落 雷	棟 232	円 3,363,500,000
	盗 難 に よ る 汚 毀 損	60	847,600,000
	給 排 水 設 備	18	504,000,000
	車 両 の 飛 び 込 み	13	151,600,000
	漏 電	8	159,100,000
	外 部 か ら の 落 下 等	7	66,000,000
	焚 火	6	64,500,000
	ス ト ー ブ	6	29,900,000
	類 焼	4	12,500,000
	そ の 他 の 火 の 粉	4	65,800,000
	コ ン コ	3	27,700,000
	灯 火	2	18,500,000
	か ま ど	1	16,000,000
	取 灰	1	14,300,000
	そ の 他 の 電 気 器 具	1	30,000,000
放 火	1	10,000,000	
不 明 ・ 調 査 中	26	228,100,000	
自 然 災 害	319	1,983,800,000	
合 計	712	7,592,900,000	

掛 金 組 合 事 務 費	1 棟 当 り 平 均 共 済 金 額	再 共 済 掛 金	再 共 済 手 数 料 収 入
円 496,796,470	円 12,040,000	円 331,076,603	円 134,076,731
66,135,816	5,710,000	65,988,270	23,322,755
562,932,286	11,550,000	397,064,873	157,399,486

済（地震等）50%

済 金 (口)	再 共 済 金	被 害 率 (口) / (イ)	備 考
風 水 害 等			
円 77,103,658	円 134,642,683	% 5.9	

支 払 共 済 金 (口)	再 共 済 金	被 害 率 (口) / (イ)	備 考
円 34,306,021	円 10,291,713	% 1.0	
3,558,891	1,067,649	0.4	
4,389,306	1,316,783	0.9	
1,081,453	324,432	0.7	
1,754,068	526,216	1.1	
313,199	93,959	0.5	
61,912,701	18,573,807	96.0	
25,077,529	7,523,255	83.9	
2,390,225	717,067	19.1	
4,604,549	1,381,364	7.0	
13,437,706	4,031,311	48.5	
20,444,843	6,133,452	110.5	
21,180,000	6,354,000	132.4	
1,073,946	322,183	7.5	
863,082	258,924	2.9	
240,840	72,252	2.4	
175,077,870	52,523,351	76.8	
77,103,658	23,130,965	3.9	
448,809,887	134,642,683	5.9	

## 2 農機具損害共済

### (引受)

加入台数	共済金額	共 済	
		純共済掛金	
台	円	円	円
11,220	20,992,750,000	94,983,117	

### (引受概要)

未加入農機具の加入推進と補償の充実を図るため、新調達価額までの加入共済金額の引上げ推進に努めた。加入台数は、11,220台（前年対比100.3%）共済金額209億9千万余円（前年対比105.0%）と増加した。

### (事 故)

事 故 台 数	加入総共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)
台	円	円
189	701,000,000	74,685,244

### (事故概況)

事故原因別では、稼働中の接触、異物の巻き込み事故が最も多く発生し、格納中7件の盗難等事故が発生したが、5件がトラクターの被害であった。

### (原因別事故発生状況)

事 故 原 因 別		事故台数	加入総共済金額 (イ)
格 納 中	盗 難 等	台	円
	鳥 獣 害	7	22,450,000
	そ の 他	3	10,850,000
稼 働 中	接 触	7	88,850,000
	異 物 の 巻 き 込 み	102	333,050,000
	転 覆	34	120,450,000
	衝 突	11	49,000,000
	墜 落	11	28,150,000
	そ の 他	2	700,000
合 計		12	47,500,000
合 計		189	701,000,000

## (7) 農機具更新共済関係

### (引受)

加入台数	共済金額	減価共済金額
台	円	円
166	247,800,000	187,900,000

### (引受概要)

新規購入農機具の加入推進と共済責任期間満了となった農機具については、損害共済への加入推進を行なった。

### (事 故)

事 故 台 数	期間満了等台数	加入総共済金額 (イ)
台	台	円
3	100	5,800,000

### (事故概況)

農作業中の接触事故、異物の巻き込みにより支払となった。  
また、責任期間満了による減価共済金の支払を行なった。



掛 金	1 台当り平均 共済金額
組合事務費	
円	円
35, 174, 203	1, 870, 000

被害率 (口) / (イ)	備考
%	
10. 7	

支払共済金 (口)	被害率 (口) / (イ)	備 考
円	%	
6, 018, 161	26. 8	
566, 456	5. 2	
1, 877, 522	2. 1	
25, 191, 684	7. 6	
10, 402, 569	8. 6	
17, 564, 073	35. 8	
8, 936, 959	31. 7	
244, 199	34. 9	
3, 883, 621	8. 2	
74, 685, 244	10. 7	

共 済 掛 金	
純 共 済 掛 金	組 合 事 務 費
円	円
29, 790, 575	1, 114, 200

支 払 共 済 金			被害率 (口) / (イ)
火災・風水害等 (口)	期間満了によるもの	計	
円	円	円	%
392, 351	105, 350, 000	105, 742, 351	6. 8

## (8) 業務関係

## ア 重要な処理事項

年	月	日	処	理	事	項
平成30年	4月	2日	辞令交付			
	4月	17日	新規採用職員研修会（～20日）			
	4月	19日	全国広報参事等会議			
	4月	20日	平成30年度都道府県農業保険主管課長会議及び農業共済団体参事会議			
	5月	1日	彩の国食と農林業の祭典実行委員会（農林会館）			
	5月	2日	余裕金運用管理委員会			
	5月	9日	埼玉県農業再生協議会総会			
	5月	11日	関東地区農業共済組合連合会・特定組合参事会議			
	5月	16日	監事会 決算監査（16日～18日）			
	5月	28日	理事会			
	5月	30日	麦巡回調査			
	6月	7日	スイートコーン巡回調査	埼玉県獣医師会総会		
	6月	14日	第2回通常総代会			
	6月	15日	埼玉県養豚協会総会			
	6月	18日	米麦改良協会通常総会			
	6月	26日	第1回全国会長等会議			
	7月	2日	JICA インドネシア研修団（2日～4日）			
	7月	11日	第1回全国参事会議（NOSAI全国）	果樹巡回調査		
	7月	12日	コンプライアンス改善委員会			
	7月	19日	埼玉県美土里情報協議会総会			
	7月	25日	収入保険に関する研修会（第1回）			
	8月	1日	損害評価会全体会議	損害評価会畑作物共済第三部会		
	8月	10日	余裕金運用管理委員会	理事会	役員研修会	
	8月	24日	関東地区収入保険担当者会議			
	8月	28日	収入保険に関する研修会（第2回）			
	8月	30日	平成30年度農地利用最適化推進活動活性化研修会（収入保険説明）			
	9月	3日	麦（一筆）損害評価会			
	9月	5日	全国会長等会議（NOSAI全国）			
	9月	6日	収入保険に関する全国担当者会議（NOSAI全国）	水稻高温障害対策会議（中部統括支所）		
	9月	10日	臨時総代会			
	9月	21日	水稻巡回調査（県内）			
	10月	5日	大豆巡回調査	スイートコーン評価会		
	10月	10日	初秋蚕評価会	平成30年度第2回全国参事会議		
	10月	11日	平成30年度任意共済全国研修会（全国町村会館）			
	10月	16日	県常例検査	東松山支所（～17日）		
	10月	24日	県常例検査	宮代支所（～25日）		
	10月	31日	県常例検査	秩父支所		
	11月	1日	余裕金運用管理委員会			
	11月	15日	理事会			
	11月	25日	埼玉県獣医師会創立70周年記念事業			
	11月	26日	全国NOSAI大会（東京メルパルクホール）			
	11月	29日	県常例検査	家畜診療所		
	12月	3日	臨時総代会			
	12月	5日	県常例検査	本所（～7日）		
	12月	10日	埼玉県畜産会	税理士会主催	収入保険研修会	
	12月	18日	監事会	中間監査（～20日）		
平成31年	1月	17日	知事と農林水産団体長との懇談会			
	1月	25日	関東地区果樹共済担当者会議（NOSAI協会）			
	1月	28日	損害評価会	畑作物共済第1部会		
	2月	1日	県常例検査講評	余裕金運用管理委員会		
	2月	6日	関東4県農業共済組合長会議			
	2月	12日	農業共済新聞全国研修集会			
	2月	13日	全国参事会議			
	2月	19日	理事会			
	2月	27日	退職給与金施設運用管理委員会			
	2月	28日	埼玉県茶業研究所研究成果発表会			
	3月	6日	臨時総代会			
	3月	9日	クリーンロード実施			
	3月	27日	理事会	コンプライアンス改善委員会		
	3月	29日	退職辞令交付			

イ 総代会

通常総代会

と き 平成30年6月14日

ところ 比企郡吉見町フレサよしみ

総代会日現在総代数 (A)	189 人	出席率
本人出席 (B)	123 人	(B) / (A) 65.1 %
代理出席	0 人	
書面出席	60 人	
出席者計 (C)	183 人	(C) / (A) 96.8 %

重要な議事及び議決事項

- |   |    |
|---|----|
| (1) 平成29年度事業報告書、財産目録、貸借対照表、損益計算書、剰余金<br>処分案及び不足金処理案について | 可決 |
| (2) 平成30年度事業計画設定並びに事務費賦課額及び徴収方法について                     | 可決 |
| (3) 役員報酬について  | 可決 |
| (4) 損害評価会委員、共済支部長及び顧問弁護士報酬について                          | 可決 |
| (5) 損害評価会委員及び家畜診療所運営委員選任について                            | 可決 |
| (6) 余裕金預入先金融機関について                                      | 可決 |
| (7) 借入金最高限度額について  | 可決 |
| (8) 事業規程の一部改正について                                       | 可決 |
| (9) 監事監査規則の一部改正について                                     | 可決 |

臨時総代会

と き 平成30年9月10日

ところ 埼玉県農業共済会館

総代会日現在総代数 (A)	189 人	出席率
本人出席 (B)	20 人	(B) / (A) 10.6 %
代理出席	0 人	
書面出席	168 人	
出席者計 (C)	188 人	(C) / (A) 99.5 %

重要な議事及び議決事項

- |  |     |
|--|-----|
| (1) 平成31年産農作物共済（麦）に係る危険指数等の設定について          | 可 決 |
| (2) 平成31年産果樹共済（なし・ぶどう）に係る危険指数等の設定について      | 可 決 |
| (3) 平成31年産畑作物共済（スイートコーン・蚕繭）に係る危険指数等の設定について | 可 決 |
| (4) 平成31年度園芸施設共済に係る危険指数等の設定について            | 可 決 |
| (5) 平成31年度家畜共済に係る危険指数等の設定について              | 可 決 |

臨時総代会

と き 平成30年12月3日

と ころ 埼玉県農業共済会館

総代会日現在総代数 (A)	189 人	出席率
本人出席 (B)	21 人	(B) / (A) 11.1 %
代理出席	0 人	
書面出席	165 人	
出席者計 (C)	186 人	(C) / (A) 98.4 %

重要な議事及び議決事項

- |  |     |
|--|-----|
| (1) 事業規程の一部改正について  | 可 決 |
| (2) 埼玉県農業共済組合家畜診療所に係る診療料金の承認について                                       | 可 決 |
| (3) 全国農業共済組合連合会と埼玉県農業共済組合との<br>「建物共済の再保険関係または保険関係に関する基本契約書」の<br>締結について | 可 決 |

臨時総代会

と き 平成31年3月6日

と ころ 埼玉県農業共済会館

総代会日現在総代数 (A)	189 人	出席率
本人出席 (B)	21 人	(B) / (A) 11.1 %
代理出席	0 人	
書面出席	165 人	
出席者計 (C)	186 人	(C) / (A) 98.4 %

重要な議事及び議決事項

- |                                      |     |
|--------------------------------------|-----|
| (1) 平成30年度収支予算補正について                 | 可 決 |
| (2) 平成31年度農作物共済（水稲）に係る危険指数等の設定について   | 可 決 |
| (3) 平成31年度畑作物共済（大豆・茶）に係る危険指数等の設定について | 可 決 |
| (4) 事業規程の一部改正について                    | 可 決 |

ウ 組合員の増減 (人)

年度始組合員数	年度末組合員数	増 減 (△)	摘 要
81,482	78,513	△ 2,969	

エ 役職員その他

(ア) 役職員

役員数 (人)

理 事			監 事	合 計
常勤 0	非常勤 21	計 21	4	25

職員数（本所） (人)

	参事	監査室兼 収入保険対策室	総務部			事業第一部				事業第二部			家畜診療所	合計	
			部長	総務課	経理課	企画情報課	部長	次長	農産課	果樹園芸課	部長	任意課			家畜課
男	1	3	1	5	2	2	1	1	4	4 (1)	1	2	2	7	35
女	0	1	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1	2	0	8
計	1	4	1	6	3	3	1	1	5	4 (1)	1	3	4	7	43

( )は兼務 合計欄は兼務を除く

(中部統括)

(人)

	統括支所長	次長	中部統括支所					東松山支所	上尾支所	合計
			総務課	農産課	果樹園芸課	任意課	家畜課			
男	1	1	3 (1)	7	4	4	4 (2)	10	10	41
女	0	0	2	1	1	1	0	1	1	7
計	1	1	5 (1)	8	5	5	4 (2)	11	11	48

( )は兼務 合計欄は兼務を除く

(北部統括)

(人)

	統括支所長	次長	北部統括支所					本庄支所	秩父支所	合計
			総務課	農産課	果樹園芸課	任意課	家畜課			
男	1	1	3	6 (1)	4	7	4	9	4	38
女	0	0	2	0	0	0	2	2	2	8
計	1	1	5	6 (1)	4	7	6	11	6	46

( )は兼務 合計欄は兼務を除く

(東部統括)

(人)

	統括支所長	次長	東部統括支所					宮代支所	越谷支所	合計
			総務課	農産課	果樹園芸課	任意課	家畜課			
男	1	1	3	5	4	3 (1)	3 (2)	12	5	34
女	0	0	1	1	1	1	0	3	1	8
計	1	1	4	6	5	4 (1)	3 (2)	15	6	42

( )は兼務 合計は兼務を除く

(嘱託・臨時・派遣職員)

(人)

		本 所	中 部 統 括 支 所	東 松 山 支 所	上 尾 支 所	北 部 統 括 支 所	本 庄 支 所	秩 父 支 所	東 部 統 括 支 所	宮 代 支 所	越 谷 支 所	診 療 所	合 計
嘱託	男	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	4
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨時	男	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	5
	女	2	1	1	1	0	0	0	1	1	0	1	8
派遣	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	4
合計		4	2	1	1	0	1	0	3	4	1	4	21

(合計数)

(人)

		職 員	嘱託・臨時・派遣	合 計
男		148	10	158
女		31	11	42
合計		179	21	200

(イ) 総代、共済支部長、損害評価会委員、損害評価員

(人)

総代	共済支部長	損害評価会委員	損害評価員
189	5,592	248	2,761